

3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大によって、いわきへら研の月例会も自粛となっていました。野外で人と人との間隔もあるので釣り自体の感染リスクは極めて低いのですが、乗り合いでの釣行や管理釣り場の事務所などリスクはそれなりにあります。もっとも、県をまたいでの移動自粛となると、ほぼ他県で例会を組んでいる当会では自粛はやむをえません。6月1日に県をまたいでの移動自粛は解除となったことから、ようやく開催できる状況となりました。

どのくらいの会員が参加するのだろうかと思いましたが、12名が参加。皆さん、試釣を結構やっているようで、開始前から駆け引きが・・・私はぶっつけ本番なので、早めに到着し狙いのカジカ沢を見に行くことに。水位は高いとのことでしたが、思ったよりは減水していて、釣り座は急斜面。聞くところ、昨年の大雨で土砂が流れ込んだせいか、ズブズブの状態、釣台の前足は思っきり潜り込むとのこと。ということで、足場は斜面の上に。タモがやっと水面に届く距離で、釣れるたびに四苦八苦。

今回の入釣順位は、前回の成績が悪かったので3番スタート。狙いのカジカ沢は競合している噂でしたが、入ってみればカジカ沢下流側は一人。上流側にH子君(弟)が入ったのみでした。他の会員は対岸の人気ポイントである高圧下と、普段は人が入らない急斜面を降りた県道下に分かれたよう。

こちらは、21尺でタナ3本。本来なら長竿の宙だけ、前日のボートフィッシングの疲れもあり(言い訳?)、朝から21尺のドボン!!しかし、開始からしばらくはモジリもなく、やらかした感じ。しばらくして、集金のオジサンがやってきたので、状況を聞くと高圧下は1枚のみとのこと。全体的に釣れていないのか〜と思ったところで待望の1枚目。ようやくポツポツではあるけど釣れ始める。7時の時点で5枚。しかし、釣れてくるのは食わせのオカメとバラケが半々。グルテンも試すが1枚だけ・・・10時を過ぎたところで、下流の会話が聞こえてきて13枚とのこと。こちらと同じ枚数なのでここからが正念場だけど、10時を過ぎたところから、食いがさらに悪くなり、ほとんどがスレ、しかも、上げる途中でほとんどがバテてしまう。イライラの状態の中、魚が回ってくると1、2枚拾う辛抱の釣りとなってしまいました。昼になってH子君が早上がりするとのことなので検量に行くと、会長がフラシ3つとのこと。予想はしていたけど・・・まあ、優勝はなくなったので、あとは気楽に楽しむことに。午後は、時間1、2枚のペースとなり、終わってみれば22枚でした。

検量の結果は、19.4kgで2位。型は結構良いと思っていたけど、平均で約900g!恐るべし水沼ダム。優勝は会長の34kg。県道下で18尺のバランスの底とのこと。高圧下の方は、頭が18kg台、10kg以上も多く、やはり定番のポイントでした。

来月は、首都圏に近い小貝川吉野。これから第二波が拡大しないといわれていますが・・・もちろん私は塩釣り始動です!!



朝のミーティング。一応マスクとソーシャルディスタンス?



毎回、竿は満月。以外に走らないけど、重量感は満点。腕がさがりません。



とにかく重量級



カジカ沢流れ込みの下流側結構な急斜面&泥沼

[水沼ダムはこちら](#) [地図へ](#)

[例会成績はこちら](#)

[いわきへら研の公式HP](#)

基本データ

水沼ダム

6月7日 5:00~14:00

ポイントカジカ沢流れ込み下流約50m

竿 21尺 水深3m ドボン

バラケ 底バラケ3:凄麩2:水1

食わせ 一発極小